



# 国際協力

2023.1  
NO.74  
新春号

JICA 駒ヶ根

## 新春号特別企画 ～新春座談会～

駒ヶ根協力隊を育てる会会長×MWF実行委員長×駒ヶ根訓練所長

新年明けましておめでとうございます。本日は広報紙の新春号特別企画「新春座談会」に駒ヶ根訓練所の小林文通所長、ゲストとして駒ヶ根協力隊を育てる会の池崎保会長と同育てる会幹事で「みなこいワールドフェスタ」\*(MWF)の実行委員長も兼ねる坂元洋さんにお越しいただきました。よろしくお願いたします。

**1** 駒ヶ根協力隊を育てる会の池崎会長(昨年5月に会長就任)は、2年ほど前に駒ヶ根に移住されてきたとのこと、きっかけと住み心地などお聞かせください。

外務省職員として数か国、最後はブルキナファソで大使館勤務をし、2年半前に定年退職し移住してきました。28年前、外務省の同僚の誘いから家族で駒ヶ根に宿泊した際、中央アルプスの美しさに感動したのがきっかけです。

役人時代、100か国以上を訪問しましたが、駒ヶ根は空気がきれいいて水が美味しく、大自然のエネルギーに満ちた世界でも最も美しい山紫水明の地と感じます。

加えて、市民の皆さんがボランティアと互助の精神に満ちており、家内共々終生の地と考えているところです。



池崎保会長

**2** 小林所長は、以前ブルキナファソのJICA事務所長をされ、池崎会長には大使時代に事務所や隊員達がお世話になったのではないのでしょうか？

池崎会長が、大使として駐在されていた時代に、大使公邸でブルキナファソでは手に入らない日本食を提供いただくなど、隊員たちの労をねぎらっていただき、当時の隊員たちは本当に感謝をしていました。



**3** 池崎会長、協力隊員との交流はいかがでしたか？

これまでモロッコ、コートジボアール、セネガル、チュニジア、そしてブルキナファソで協力隊員と交流してきました。ブルキナファソでは、隊員の大統領への表敬訪問のアレンジや、中間活動報告会で、隊員の苦労話や現地の情報を得たり、実際の活動状況を視察したりしました。

正直に言って悲喜こもごもあるでしょうが、概ね隊員は悩みながらも粘り強く頑張っているなあとという印象です。特に保健医療分野の技術移転という面では難しい側面もありますが、任国を愛し、2年間の経験が人生の大きな思い出となっている隊員が多いと感じました。

**4** 小林所長、事務所長から見て協力隊員はどうでしたか？

ブルキナファソは、世界の中でも開発が遅れている国で、ボランティアとして活動することは、本当に大変なことの連続だったと思いますが、当時の隊員たちは自分に何ができるのかをしっかりと考え、現地の人々に溶け込み活動をしていると感じましたね。

**5** 小林所長、現地ではどのような隊員が求められていると思いますか？

開発途上国での生活は思いもよらない出来事の連続ですから、それらの出来事に柔軟に対応でき、任国の人たちの国民性を理解して周りの方々と楽しく協調しながら活動ができる隊員が求められていると思います。

# 駒ヶ根協力隊を育てる会の歴史

駒ヶ根協力隊を育てる会 40周年記念

1983

1990

2000

2001

**1983 (昭和58年)**  
駒ヶ根協力隊を育てる会発足  
駒ヶ根市山頂美化登山

**1986 (昭和61年)**  
長野県協力隊を育てる会発足  
訓練終了時における記念品「オリジナル手ぬぐい」の贈呈

**1988 (昭和63年)**  
(JICA) 駒ヶ根訓練所増築竣工

**1990 (平成2年)**  
(JICA) 25周年  
(JC) 中学生体験入隊開始  
7回連続協力隊講座実施

**1992 (平成4年)**  
JCと当会主催による「JCV駒ヶ根ネットワーク」の開催  
「小さなハートプロジェクト」の開始  
JC事業として「小さな国際貢献運動」が提唱され、募金活動を開始

**1994 (平成6年)**  
駒ヶ根青年会議所(JC)、広小路商店街振興組合、当会の3団体共催による駒ヶ根市協力隊週間の開催  
駒ヶ根市東南アジア視察研修の実施

**1999 (平成11年)**  
区議会を通じて、書き損じ・未使用はがき回収がスタート  
名称を「駒ヶ根協力隊を育てる会」に改め、対象を駒ヶ根市民から地域住民へ拡大  
協力隊週間の実行委員会名を「みなこいワールドフォーラム(略称:MWF)」に変更

**2000 (平成12年)**  
スリランカ「アイ・キャンパ」に市内から観衆を1,200名寄付  
(市) 訓練所がある由未だに福島県二本松市と友好都市協定を締結  
協定を締結  
協定事業として「小さな国際貢献運動」が提唱され、募金活動を開始

**2002 (平成14年)**  
(社) 協力隊を育てる会 25周年記念として感謝状受領  
JICAから国際功労者表彰を授賞  
隊員候補生歓迎ホスターの作成・掲示

**1985 (昭和60年)**  
育てる会ニュース創刊  
協力隊 20周年記念駒ヶ根集会の開催  
協力隊週間の実施

**1987 (昭和62年)**  
モロッコ・チュニジア協力隊活動現地視察団派遣  
駒ヶ根協力隊を育てる会について  
JICA 駒ヶ根訓練所の開設に際し、この駒ヶ根市に在住する外国人の協力を仰ぎ、訓練所の増築に協力していただきました。この駒ヶ根市に在住する外国人の協力を仰ぎ、訓練所の増築に協力していただきました。

歴代会長・名誉会員

任期	会長	名誉会員
1983-1988	佐藤 隆	佐藤 隆
1989-1990	佐藤 隆	佐藤 隆
1991-1992	佐藤 隆	佐藤 隆
1993-1994	佐藤 隆	佐藤 隆
1995-1996	佐藤 隆	佐藤 隆
1997-1998	佐藤 隆	佐藤 隆
1999-2000	佐藤 隆	佐藤 隆
2001-2002	佐藤 隆	佐藤 隆
2003-2004	佐藤 隆	佐藤 隆
2005-2006	佐藤 隆	佐藤 隆
2007-2008	佐藤 隆	佐藤 隆
2009-2010	佐藤 隆	佐藤 隆
2011-2012	佐藤 隆	佐藤 隆
2013-2014	佐藤 隆	佐藤 隆
2015-2016	佐藤 隆	佐藤 隆
2017-2018	佐藤 隆	佐藤 隆
2019-2020	佐藤 隆	佐藤 隆
2021-2022	佐藤 隆	佐藤 隆

**1991 (平成3年)**  
インターナショナル・サマーキャンプの実施  
南アフリカフェア開催

**1993 (平成5年)**  
(JC) こまかね小丸国際広場を開催  
こまかね小丸国際広場  
この広場の建設に際し、この駒ヶ根市に在住する外国人の協力を仰ぎ、建設に協力していただきました。

**1998 (平成10年)**  
「駒ヶ根訓練所開設20年の集い」の実施  
協力隊週間を市民参加型の実行委員会形式に移行

**2000 (平成12年)**  
「駒ヶ根訓練所開設20年の集い」の実施  
協力隊週間を市民参加型の実行委員会形式に移行

**2001 (平成13年)**  
駒ヶ根駅前ビル(アルバ)に「こまかね国際交流プラザ」開設  
修了記念品のハンダナを新たなデザインで作成

**2001 (平成13年)**  
駒ヶ根駅前ビル(アルバ)に「こまかね国際交流プラザ」開設  
修了記念品のハンダナを新たなデザインで作成

## 「駒ヶ根協力隊を育てる会 40年の歩み」パネル



小林丈通所長

**6** 小林所長、訓練所として訓練生には何をここで学び身に付けていってほしいですか？

まずは語学をしっかり習得していただきたいと思います。語学ができるとできないとでは活動の幅が大きく異なりますから。そして、赴任先の文化や国民性をしっかりと理解して、現地に溶け込みながら活動をする術を習得してほしいですね。

**7** 坂元さんは、「協力隊週間～みなこいワールドフェスタ～」(MWF)の実行委員長も務められています。新型コロナウイルスの感染拡大で毎年恒例のMWFも大きな制約を受けたのではないのでしょうか？

実行委員長を引き受けてからコロナの拡大が始まり、開催自体を迷いましたが、実行委員会で話し合いオンラインでの開催という新しい形になりました。メンバーは苦勞をしたと思いますが、協力隊週間を止めずに開催でき良かったと思います。

**8** 坂元さん、昨年29回目のMWFは、総括するとどうでしたか？

このイベントの醍醐味は、やはりリアルでの出会いや発見だと思うので、規模を縮小しながらも人が集える形で開催できたのは良かったと思います。コロナ禍をこの事業を見直す機会として捉え、協力隊があるからこそできる協力隊週間、国際広場として再出発できたと思います。



坂元洋さん

**9** 坂元さんは、青年会議所(JC)時代からMWFに関わっておられますが、どんな思いでこのような市民発意の活動に携わってきたのでしょうか？

私自身が縁あって駒ヶ根に移住してきましたが、JC時代に訓練生との交流があり、積極性、志がすごいと感じたのが協力隊に対する第一印象でした。途中でMWFがJCから市民主体の事業に変わりましたが、協力隊から元気ももらい、新しい発見ができると感じ、20年ほど前から関わっています。

**10** 池崎会長、「育てる会」への思いを聞かせてください。

育てる会は訓練所を地域の宝とし、伊南地域(宮田村、中川村、駒ヶ根市および飯島町)の人々の国際感覚の醸成、協力隊員へのささやかな支援事業や、広報活動を主たる事業としています。昨年育てる会が40周年を迎え40年の歩みパネルの巡回事業も実施しました。

今後も地域の子どもの訓練体験、帰国隊員経験談などの協力隊事業の市民への紹介や、国際交流の町作り、就職・定住促進等、幅広い活動を展開しつつ、未来に夢を持つ世代の育成をこの伊南地域で図れば、育てる会の存在意義は大きなものになると考えています。40年もの間訓練所と市民が国際交流都市を目指し、事業を展開してきた例は全国でも珍しいと思います。

**11** 小林所長、訓練所は今年開設44年を迎えます。地域の中で支援を受けての歴史だったと思いますが、振り返ってどうでしょうか？

駒ヶ根訓練所が44年もの長きにわたりこの上伊那地域で運営ができているのは、地域の方々に温かく受け入れていただいているからと考えています。地域との関係性を構築するうえで、育てる会の存在は不可欠です。訓練所が地域に溶け込みながら活動をするため、引き続き育てる会と二人三脚で歩んでいきたいと考えています。

**12** 小林所長、応援団の育てる会に期待することは何でしょうか？

一人でも多くの市民の方々に協力隊のこと、訓練所のことを知っていただくべく、引き続き活動を共にして行きたいと思っています。みなこい地域の小中学生全員に、在学中に一度は訓練所を訪問してもらえるようなプログラムを一緒に作ることでできればと考えています。



駒ヶ根国際広場

として地域のみならず国際交流上への  
と、協力隊OB・OGに集まって頂き、  
きかけづくりなどを目的としています。  
する協力隊週間と、メインイベントとなる  
が国際広場を例年同様に開催しています。

**2004** (平成16年)  
駒ヶ根訓練所開設25周年  
記念事業  
に隣り立つ地球市民の会  
設立10周年記念式典へ参加

**2005** (平成17年)  
訓練終了時における記念品  
(オリジナルバッチ)の贈呈

**2009** (平成21年)  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所  
開所30周年記念事業  
「平成22年度駒ヶ根協力隊を  
育てる会カレンダー」の配布

**2012** (平成24年)  
中学生体験入隊 (当会主催)  
の初開催  
訓練終了時における記念品  
(オリジナル日本Tシャツ)の  
贈呈

**2015** (平成27年)  
福島県二本松市との交流事業  
青年海外協力隊  
発足30周年記念セミナー  
※長野県内づくり支援会共同開催  
ネパール地震(2015年4月25日発生)  
交流活動 (長崎大学3団体と  
有明市市財料と連携し募金活動  
を行い、当会ではヒマラヤ保全  
協会を通じて支援)  
※活動は2次実行を継続

**2016** (平成28年)  
訓練生訓練所入退所時に  
のほり旗を「協力隊通り」  
に掲揚

**2017** (平成29年)  
青年海外協力隊員と創る  
みなこい地域魅力発見マップ  
作製事業 (市街地まち歩き、  
みなこい地域魅力体験ツアーの  
実施)  
協力隊通り標識4か所修繕※  
徳島隊員里帰り促進  
プロジェクトチラシの製作※  
訓練生進捗旗の製作※

**2018** (平成30年)  
JICAボランティア事業により派遣  
される方々の態勢を  
JICAボランティアへ  
「JICA海外協力隊」へ変更  
訓練生入所時に「協力隊通り」へ  
激励旗を設置

**2019** (平成31年/令和元年)  
JICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所  
40周年記念事業の実施  
※長野県内づくり支援会共同開催  
駒ヶ根来訪の元隊員に駒ヶ根  
ソースかつ丼券(千円分)を  
配布、駒ヶ根ハーフマラソン等  
で利用  
駒ヶ根来訪の元隊員に駒ヶ根  
ソースかつ丼券(千円分)を  
配布、駒ヶ根ハーフマラソン等  
で利用  
元隊員写真展の開催  
※一長野県内づくり支援会共同開催

**2020** (令和2年)  
新型コロナウイルス感染症の  
世界的な流行により、派  
遣隊員の一均派遣、訓練所  
での訓練中止が余儀なくさ  
れる

**2021** (令和3年)  
(JICA)2021年度1次隊から訓練再開

**今後の活動は？**  
育てる会では今後も、以下の4つの事業を中心に、JICA海外協力隊の  
支援をすることに加え、いなな地域のみならず国際理解・国際協力の  
きっかけを作っていきます。

- ・協力隊週間・こまが根国際広場の開催
- ・小さなハートプロジェクト
- ・中学生体験入隊
- ・書き損じはがきなどの収集による国際協力資金の獲得

**協力隊を育てる会に入会する**  
私たちと一緒に、青年海外協力隊を応援しましょう！

個人会員 年会費 1,000円  
法人会員 年会費 3,000円

特典  
・会報の送付  
・各種イベントのご案内

入会申し込み方法  
以下の事務局にお問合せいただくか、お問合せフォーム  
からお申込みください。

駒ヶ根市役所 企画振興課 地域政策係  
〒399-4192  
長野県駒ヶ根市高須町20番1号  
電話 0765-83-2111



**13 坂元さん、訓練所との連携やMWFのあり方についてお聞  
かせください。**

ここ数年の実行委員会は、大学生や高校生などの若い人  
が増えてきました。学生が世界に触れる機会や、新しい出会  
いの場になれば良いと思います。この地域に協力隊がある  
からこそできる特色有る事業を全国に発信するため、  
JICA、JOCA、OVの皆さんと一緒に活動し、協力をいただき  
たいと思います。

**14 小林所長、新年にあたりwithコロナの時代に合った訓練  
や地域との関係性をどのように築いていこうとお考えでしょ  
うか？**

外部から多くの方が参加する訓練ですので、ゼロコロナと  
いうのは難しいと思いますが、陽性者が出てくるとクラスターに  
発展させないような体制を整え、訓練を着実に実施したい  
と考えています。地域のみなさんが安心して訓練生を受け入  
れていただけるよう、引き続き努力をしていきたいと思いま  
す。

ご談話ありがとうございました。新年を迎え、改めて新型コ  
ロonavirus感染症の終息を祈りつつ、これからも訓練所と  
育てる会が手を取り合って発展していくことを期待したいと  
思います。本日はありがとうございました。

**第29回協力隊週間 ~みなこいワールドフェスタ開催のご報告~**

**国際広場を銀座通りにて3年ぶりに実施！**

10月22日(土)~30日(日)の9日間、昨年度も好評の「ドライブインシア  
ター」をはじめ、南米ペルーからみなこい地域に移住した料理好きのアナさ  
んによる「地球の料理教室」、色鮮やかな民族衣装とヘアメイクをして記念  
写真を撮る「旅の写真館」、地域おこし協力隊とJICA海外協力隊経験者の  
トークイベントなど、多様な文化に触れる多くの体験イベントがみなこい地  
域で行われました！



ネパールのお祭り「ティハール」を  
砂絵体験している国際広場の様子

最終日の国際広場では、駒ヶ根市内の中高生が作成した黑板アートや、中  
米メキシコでお祭りの際に使われるくす玉「ビニャータ」展示、協力隊派遣  
国の民族衣装を着た地域の人たちによるパレードが行われました。また、世  
界の遊びに触れるお祭りスタンプラリー、さまざまな国の料理が楽しめる  
ワールドレストラン、輸入雑貨販売の「協力隊マルシェ」や協力隊応募個別  
相談など、多くのブースが出展され、幅広い世代の方々に賑わいました！

**駒ヶ根訓練所内にVRルームが誕生！**

長野県諏訪市に本社を置くセイコーエプソン株式会  
社様のご協力のもと、訓練所内にプロジェクターを使用  
したVR(バーチャルリアリティ) ルームを新設しました！  
施設見学時に、協力隊員の派遣国や活動の様子などが  
3面映像で体験出来ます！訓練所にお越しの際は、是非  
ご体験ください。



施設見学はご予約が必要になります。  
詳しくはJICA駒ヶ根HPをご覧ください。

また、訓練所入口や2階ロビーのデザインも現在アッ  
プデート中！新駒ヶ根訓練所をお楽しみに！

# 2022年JICA海外協力隊 秋募集説明会を開催しました!

11月1日～12月12日のJICA海外協力隊秋募集期間中、県立長野図書館と松本信毎メディアガーデンで対面型となる募集説明会を開催しました!

協力隊経験者との座談会や個別相談をはじめ、松本会場ではウクライナ避難民の生活支援に関わった協力隊経験者の特別トークイベントも実施しました。

参加者からは「帰国後の活動もイメージすることができる内容だった」「将来参加するための情報収集ができて、参加意欲が高まった」などのコメントをいただきました! JICA長野デスクと駒ヶ根訓練所では、応募に関するご質問・ご相談を引き続き受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。



説明会前の運営スタッフ



ウクライナ避難民支援トークイベントの様子

## 2022年度3次隊(4名) 長野県出身JICA海外協力隊員 行ってきます!!

かとう ほだか  
**加藤 穂高**さん (長野市) 派遣国: ナミビア 職種: 電気・電子設備



エロンゴ州の技術専門学校で、電気工学の基礎知識指導やリモート監視/制御システムの実習指導を通して、技術力向上のお手伝いをしてきます! 笑顔と粘り強さを大切に、何にでもチャレンジしたいと思えます!!

しもとり けんこ  
**下鳥 健吾**さん (茅野市) 派遣国: ニカラグア 職種: 青少年活動



首都の家族省予防課に派遣されます。地域巡回を通して、子供や高齢者を犯罪等から守る活動を行います。警察官としての経験、そして趣味の生け花を生かして、現地に「自分色の花」を咲かせます。

こいけ みさき  
**小池 美咲**さん (小海町) 派遣国: ニカラグア 職種: 作業療法士



作業療法士として、NGOの障害児通所施設へ派遣予定です。病気や障害があってもその子らしい生活を送ることができるよう、ニカラグアの医療や生活環境を知り、楽しく子供たちと関わることを大切に取り組んでいきます ¡Vamos!

すずき  
**鈴木みのり**さん (伊那市) 派遣国: ケニア 職種: 体育



ケニア、カカメガ郡の高校へ体育隊員として派遣されます。体育の先生がいない学校へ、日本人として初めての派遣… 現地の子供達に負けたくないくらい元気に、自分ができることを精一杯やって参ります! Nitajitahidi!

## SBC信越放送ラジオに、長野県の協力隊OBOG・出発前隊員・JICA駒ヶ根スタッフが出演中!

毎月第4土曜日  
8時22分～8時33分頃

【武田徹のつれづれ散歩道】内コーナー「地球色の窓を開けよう」

毎月第3月曜日  
13時13分～13時30分頃

【ミックスプラス】内コーナー「協力隊と巡る音楽世界旅行」



SBCラジオHP

## 訓練生のリアルな声をお届け!

訓練生日記  
続々更新中!

JICA海外協力隊の派遣前訓練中の訓練生が、協力隊参加のきっかけや、訓練の様子、1日の楽しみや、同期の仲間たちについてなどを「訓練生日記」として発信しています。皆さま是非ご覧ください!



## 2022年度 駒ヶ根訓練所 派遣前訓練人数実績

1次隊: 69名 2次隊: 45名 3次隊: 66名 4次隊訓練予定: 42名 合計: 222名

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail jicakjv@jica.go.jp  
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページ

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp) までメールでご連絡ください!